

II - 《CO₂削減・利用技術分野》

CO₂は利用出来る理想的なエネルギー源

世界中が莫大な予算を使ってCO₂削減に向かう今、もう一度原点に立ち帰り今行われる削減方法は正しい方法なのか、他に方法は無いかを考えて見ませんか。

燃焼機関から発生する『CO₂だけを捕えて沢山のエネルギーを使い封じ込める方法は、その為に使うエネルギー源から発生するCO₂はカウントされていません。』膨大なエネルギーを使い海底や地下に封じ込める方法は、地殻変動等で噴出の危険性が有り場所の選定も限られます。

此の様に、各国政府が掲げる削減値は差引されない値ですから、本当に地球温暖化は防止出来るでしょうか？

弊社は、此の矛盾解決に削減エネルギーを殆ど使わずCO変換し、再生可能エネルギーとして利用するα粒子線エネルギーによる画期的方法を確立しました。

140億年の半減期を持つ純度99.99%のトリウムから発するα粒子線エネルギーは安心・安全で扱い易くウラン、プルトニウムを凌ぐ地球最強のエネルギーです。イニシャルコストは掛かりますが、単年度のランニングコストほぼ0に等しいエネルギーを使ってCO₂をダイレクトに削減し、更にCOエネルギーとして利用出来る理想的方法です。



ハイドロエナジーα装置(特許技術)

CO ガスに変換し石炭・石油・天然ガスを使用する既存の燃焼機関に送り、再び燃焼→CO₂発生→CO ガスに分離エネルギー利用を繰り返せますので、究極の CO₂ 削減が出来ます。

既存の事業者エネルギー削減の経済的メリットを与えながら CO₂ を削減する技術です。

その方式は以下です。

α 粒子線由来 he(弊社開発 hidro エネルギー α 装置)→CO₂→O +CO

※ノーベル賞受賞学者 アーネスト・ラザフォード理論の応用技術

此の方法を世界中に拡げる事で、たぶん地球上から CO₂ が不足するかも知れません。

そして、多くの国が掲げる 2030 年 2050 年等先の削減値目標を待たずに必ず実現出来ます。

これ迄築き上げた技術、燃焼機関をそのまま活かし僅かなランニングコストを掛けるだけで、ほぼイニシャルコスト 0 でダイナミックな地球温暖化防止が可能と成ります。キーと成るのは、安心・安全・扱い易く何世代も使える α 粒子線エネルギー利用です。(要メンテナンス)

現在、資力不足から小型の分子乖離装置(hidro エネルギー α)を作り本来目的とは違う福島原発事故による自然界の飛散性放射性物質レベル低減(低減値 30~50%)、トリチウム汚染水レベル低減(平均 33%低減)を達成し経産省、東電からなる審査機関で審査を受けています。

此の技術は、経産省、東電から 1%でも落とせばノーベル賞ものと言われこれ迄の常識では不可能と思える技術ですが、見事低減を成功させました。

此の様に α 粒子線エネルギーは、沢山の可能性を秘め今後大気中窒素 N を分解し H +O に変換(ラザフォード理論)し超低コストな水素利用の道も目前にしております。

現在の hidro エネルギー α 装置を大型化し、既存の燃焼機関に取り付ければ急激に地球温暖化防止に繋がるものと思います。

温暖化前の地球環境に限りなく回復させ、自分の家族や人類の未来に繋がる世界市場を捉えた CO₂ 削減・利用事業、更には CO₂ 削減値事業にご検討各社の英断をお待ち申し上げます。

本ご案内は、地球温暖化防止に最も効果的で**粒子線によるCO₂(CO)エネルギー循環利用**に至る技術の概略説明で御座いますのでご検討に際しては、ご要望に応じ何時でも詳しいご説明を致します。